



全国公立学校教頭会通信 第5号

# きずな

令和6年度 全国公立学校教頭会研究大会  
高知大会 第3分科会

発行 令和6年9月1日

全国公立学校教頭会 広報部

電話： 03-3436-4868

Mail： [zenkokyo@kyotokai.jp](mailto:zenkokyo@kyotokai.jp)

HP： <https://kyotokai.jp>

令和6年度、『第66回全国公立学校教頭会研究大会高知大会』が、7月31日～8月1日に開催されました。全公教広報部員も各分科会に参加しましたので、取材した概要をお伝えいたします。

## 第3分科会 「教育環境整備に関する課題」①

■提言者 鹿角市立八幡平小学校 教頭 黒澤 真孝 先生

### ■提言主題

「自信をもって未来を切り拓くことのできる児童生徒の育成」を目指した教育環境整備  
—地域社会及び学校間との連携をさらに推進するための教頭の役割—

### ■概要



地域社会との連携では、①外部人材や地域資源活用のパイプ役②目的の共有化から、学校間の連携では、①連絡調整及び場の設定②趣旨説明及び助言から連携を進めてきた内容を明らかにして、教頭として今後できることは何なのかを探っていく研究が紹介された。成果として、コミュニケーション能力やふるさとへの愛着の高まり、伝統の継承や重みについて考える機会となったことや刺激を受けることができた。課題として地域の高齢化やすり合わせの難しさ、不測の事態に備えての持続可能な交流を進めるとともに新たな交流の在り方を模索していくことが示された。

### ■グループ協議

「持続可能な地域・学校間の連携づくりのための副校長・教頭の役割」を柱に各校の取組について成果と課題が協議された。



提言20分、グループ協議50分。その後に16の参集グループとオンライングループからそれぞれ指定された5グループから交互に発表で40分の意見交流があった。地域とのつながりは重要、外部からの依頼が過多、目的の共有化。コロナ禍で新しいこと、再開のタイミング。若い人のボランティアはgive&takeで。今後のPTAの在り方、30%の学校も。短期の移動では引継ぎが不可能。持続可能な地域とのパイプ役コーディネーター役割大。要望のすり合わせが難しい。地域人材をどう生かすか。高齢化によるお願いのバランス…等の活発な意見交流があった。

### ■指導・助言

○宮崎市立鏡洲小学校長 尾崎 浩一 先生

- ・地域社会とのパイプ役は、第1印象が大事。宮崎だとまちづくり協議会。黒澤先生の「地域を知るための勉強会」はすごい。教頭の仕事はコロナ禍の負担が復活しているが、持続可能・費用対効果から考える必要がある。
- ・コミュニティスクール、地域人材を上手に活用し学校間の連携を図ってほしい。
- ・働き方改革から職員の負担感を減らしていく。

○高知県教育委員会小中学校課 教育DX推進担当チーフ 田所 久仁夫 先生

- ・鹿角教頭会の実践から①地域を知る②目的の共有③学校間の連携。鹿角教頭会の課題から①要望とねらいのすり合わせ②地域の方々の高齢化、指導時間の不足、活動のマンネリ化。
- ・牛久市、浅口市、南部町の事例紹介。

- ・学校と地域がお互いに「当事者意識」を持って、「共通の目標」に向かって自分事に取り組んでいく。
- ・学校長のリーダーシップのもと、目標とビジョンを共有し、ともに協働していく。

### 第3分科会 「教育環境整備に関する課題」②

■**提言者** 宇多津町立宇多津北小学校 教頭 濟城 智哉 先生

■**提言主題**

ICTを最大限活用し、デジタルのよさが実感できる教育環境づくり  
—GIGAスクール構想推進に向けての教頭の役割—

■**概要**

- (1)町教育委員会や関係機関との連携強化①ICT環境への要望や課題の集約と整理、問い合わせ対応②町教育連携協議会の活用③持ち帰り学習の実施
- (2)教職員の情報活用能力の向上①「情報活用能力体系表」や「教科ICT利活用表」の作成と活用②研修の充実と実践の共有
- (3)校内ICT推進体制の整備①教育課程の工夫②ICT支援員や情報教育推進教員の活用

■**グループ協議**



「GIGAスクール構想推進に向けての副校長・教頭の役割について」を柱に各校の取組について成果と課題が協議された。

- ・地域による支援員の時数の格差。ICTでの業務改善。若手中心のOJT、不登校のオンライン授業、課題は自宅でのセキュリティ、情報担当への負担集中を教頭が配慮
- ・教頭の役割①行政とのパイプ②公務を整えていく③研修の重要性、端末の管理、台数の見える化、出欠のオンライン化、ハード面の役割分担・・・等活発な意見交流が行われた。

■**指導・助言**

○高知県教育委員会小中学校課 教育DX推進担当チーフ 田所 久仁夫 先生

- ・GIGAスクール構想の実現に向けて①学校・教職員で格差②町教育連携協議会の活用③教職員の情報活用能力の向上④教育DXと校務DXは相似形、キーワードはペーパーレスと情報共有。
- ・教師が「教え授ける」授業から学習者が「学び取る」授業への転換。掛図が電子黒板に替わっただけではだめ。学習者が自己選択して自己決定。

○宮崎市立鏡洲小学校長 尾崎 浩一 先生

- ・QRコード発信は若手に任せる。「教頭は市教委とのパイプ役」。
- ・教職員の情報活用能力の向上、情報活用能力体系表、教科ICT利活用表、研修の充実と実践の共有。校内ICT推進体制の整備、教育課程の工夫、ICT支援員や情報教育推進教員の活用。成果は、デジタルのよさを実感、校務の効率化につながった。
- ・課題は、意識の低い項目の改善、ICT利活用への意識の差。教頭が全てを背負う必要はない。